

骨子でのケースの示し方について

1. 骨子時点での示し方イメージ

- ・骨子時点での施設配置ケースの提示イメージは、基本的に、昨年度と同様のゾーニングのパターン図で示すことを想定。
- ・土地利用として示すことが望ましい要素を盛り込み、昨年度よりも、施設配置図としての精度を上げる。
- ・イメージを高めてもらうために、家形線（建物の形）の例を入れる。（3d のボリュームを示すことも考えられる）

2. 昨年度調査からの改良点の整理

- ・先の準備作業をもとに、昨年度の施設配置ケースについて、次の点から施設の組合せや設配置、土地利用として加味する要素の追加など、ケースの修正を行う。

	改良の視点	検討の素材
①機能の組合せ		
1	◎施設内容	○先進事例、昨年度アンケート、昨年度民間ヒアリングの検証等の検討結果の反映。 ○別途、市での公共施設マネジメントの検討内容を反映
2	◎エネルギーの平準化	○昨年度ケースのエネルギー負荷の精査。平準化の観点から、組合せの可能性がある施設の検討・整理。 ※導入機能の精査において検討するコンセプトとの整合を図りつつ検討。
②施設配置		
3	◎空間形成のあり方の検討	○交流ハブやグリーンインフラの検討を踏まえて、オープンスペースの規模・位置等の検討結果を反映。 ※隣接地、周辺地区との連続性、相模総合補給廠全面返還時のグリーンインフラの配置イメージ等を考慮。緑地配置図等による検討。 ○先進事例等から空間形成に係る動向を取り入れる。（オープンスペースを核とした施設配置がトレンドであり、基本的に昨年度のケースに近いものと想定）
4	◎交通処理方策	○ウォークラブルなまちとして、歩行者優先エリア設定について、上記3のオープンスペースとあわせて検討。 ※車両動線・駐車場配置、歩行者ネットワークなど。動線計画図等による検討。
5	◎敷地、街区規模	○建築物の環境性能の想定内容が、施設規模の目安になる可能性がある。施設規模から、敷地や街区規模、さらに街区割、区画道路の配置（後述9）を想定。

	改良の視点	検討の素材
③要素の追加		
6	◎駐車場等	<p>(交通処理方策の検討)</p> <p>○駐車場、荷捌き、その他(モビリティハブなど。交通処理とあわせた検討)</p> <p>○各スペースの必要量の算定</p> <p>○用途別に土地利用として見込むか検討</p> <p>※各施設の敷地で確保する場合は、図示はしない(敷地内に収まるかは確認する)</p> <p>※交通処理上、敷地外に共同で確保する場合は図示。</p>
7	◎雨水流出抑制施設	<p>(供給処理施設の検討)</p> <p>○調整池の規模算定</p> <p>⇒交流ハブ等(オープンスペース)との重複利用を想定して図示しない。</p> <p>※対象地全体で確保する想定。(各施設のオンサイトで確保する方法と得失等を検討)</p>
8	◎地域エネルギーシステムのための空間	<p>(脱炭素型まちづくり/供給処理施設の検討)</p> <p>○規模の目安算定</p> <p>○空間のあり方(役割・機能、配置にあたっての制約条件の整理など)</p> <p>⇒屋外、屋内(施設との重複利用)とも考えられるが、配置上、より厳しい制約となる屋外確保を想定。</p>
9	◎区画道路	<p>(脱炭素まちづくり/導入機能の精査)</p> <p>○5の街区規模を踏まえて、区画道路を配置。</p>